

答辞

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになりました。今日、私達九十八名は、ここ東陽中学校を卒業します。この三年間を振り返ってみると、かけがえのない思い出に溢れていて、今までの人生の中で最も充実していた時間だったように感じます。

三年前の四月、私達は、真新しい制服と、新たな生活への期待に胸を躍らせながら東陽中学校の門をくぐりました。あの日から三年が経ちましたが、緊張したような顔が並ぶ体育館の様子を昨日のこのように思い出すことができます。

コロナウイルス感染症流行の影響により、一日中デスクシールドをつけなければならないという厳しい制約のなか私達の中学校生活がスタートしました。それからまもなく行われた運動会は、友人達と仲を深めるととても良い機会だったように思います。初めは上手くできなかったオールメンバーズリレーのバトンパスも、重ねるうちにスムーズになっていきました。当日の結果に関わらず、私達はこの運動会で団結力を高めることができたと感じています。コロナウイルスの影響で、文化発表会も縮小版での開催になり、鎌倉遠足も直前で中止が決定するなど、行事らしい行事の思い出づくりが難しかった中学一年生。しかし、小学生の頃と比べ一段と忙しくなった生活には、その分得られるものも多く、毎日が目まぐるしく過ぎていきました。

そんな東陽中学校での生活にも慣れてきた頃、私達は二年生になりました。「先輩」と呼ばれてみると、気恥ずかしく思うとともに、自分たちが入学してからの時間の長さに衝撃を覚えました。

上級生としての責任感をもち始めてすぐに行われた長野県白樺高原での移動教室は最も印象に残っている行事の一つです。想像以上に険しかった飯盛山は、友人達と弱音を吐き合い、しかし、その都度に励まし合いながら一生懸命に登りました。車山頂上にある岩の上でお弁当を食べた時間も、忘れられません。雄大な自然と爽やかな風が疲れを吹き飛ばしてくれるようでした。また、宿舎での生活も大切な思い出です。初めての宿泊行事だったにも関わらず、ほとんど全員が五分前行動を意識して効率よく時間を使うことができました。計画的に動くこと、自分の役割を全うすることの大切さを学ぶことができた、貴重な三日間だったと感じています。

そして、私達は三年生になりました。一年生の頃憧れた、頼りがいがある三年生の先輩と同じ、最高学年になったことに小さな恐怖と誇りを感じました。

新型コロナウイルスが五類に変わり、行事での制限も減りました。皆で声を出し、精一杯楽しんだ行事の様子を、今も鮮やかに思い浮かべることができます。

三年生で最も印象に残っている行事は、やはり、京都・奈良の修学旅行です。想像以上に

大きかった奈良の大仏。鹿の数と人懐っこさに衝撃を受けた奈良公園。夕闇に浮かび上がる提灯が幻想的だった祇園祭。舞台から見える美しい景色に言葉を失った清水寺。教科書でしか見たことのないものを実際に目で見え見ると、様々な驚きがありました。また、知らない土地での班行動を通して、臨機応変に動くこと、先のことも考えながら計画的に動くことの大切さを学びました。暑さと疲労で心が折れかけたり、東京より圧倒的に電車の本数が少ないため、一本乗り遅れただけでその後の計画を見直さなければならなくなったりなど、ハプニングも多々ありましたが駅員さんに聞いたり、皆で励まし合ったりすることで、乗り越えることができました。そんなハプニングも、今となってはよい思い出です。そして、宿舎内での生活。一緒に生活したことで、それほど話したことがなかったクラスメイトとの距離も一気に縮まりました。先生方の足音にドキドキしながら友人達と笑い合ったのは、一生の思い出です。

最後の大きな行事となった文化発表会。最も心に残っているのは、学年合唱です。私達は、高難度の合唱曲「YELL」に挑戦しました。短い練習時間で、高い音域と複雑なリズムが特徴のこの曲を私達は完成させられるだろうかと不安になったこともありました。しかし、一人ひとりの真剣な練習が実を結び、本番では力強い合唱を作り上げることができました。何かを皆で作ったというこの思い出を、大切にしていきたいと思います。

この一年は、楽しい思い出を多く作ることができたと同時に、数え切れないほどの辛い思いをした一年間だったとも感じています。時間の無駄遣いが許されない、勉強に追われた日々は、私達を苦しめました。自分だけ努力が報われなかつたらどうしようという不安に押しつぶされそうになり、もう諦めてしまおうかと思ったことも何度もありました。しかし、いつも通りに接し笑わせてくれる友人、一緒に戦い励まし合える仲間、親身に進路相談にのってくださった先生方、そして、どんなときも応援してくれた家族など、周りの人に支えられ、私達は受験という大きな壁を乗り越えることができました。

私達は今、多くの方々に支えられて、卒業を迎えています。ここ東陽中学校を去る前に、その感謝の気持ちを伝えたいと思います。

まず、先生方。熱心なご指導をありがとうございました。私達の気持ちが緩んだときには正しい道を示してくださったこと、私達の強い意志を尊重し応援してくださったこと、心から感謝しています。

事務室の皆さん、主事の皆さん、給食室の皆さん。私達が毎日安全で快適に学校生活を送れるよう、支えてくださり、本当にありがとうございました。

地域の皆さん。私達が毎日安全に登下校することができたのは、皆様のおかげです。ありがとうございました。これからも、私達がまっすぐ前に進めるよう、優しく、ときには厳しく、見守ってください。

そして、生まれてきてから今まで、どんなときも支え続けてくれた家族。自分で自分の道を切り開いていけるよう、いつも私の意志を尊重してくれました。素直になれず、反抗して

しまうこともあったけれど、いつも私達を守り、応援してくれて、ありがとうございました。そのおかげで、こうして堂々と卒業を迎えることができます。これからもたくさん心配をかけてしまうと思いますが、よろしくお願いします。

在校生の皆さん。皆さんが思っている以上に、中学校で生活する三年間は短いものです。今しかできないことに全力で取り組み、悔いのない学校生活を送ってください。心から応援しています。

今日、私達は東陽中学校の全課程を終え、新たな希望と期待を胸に旅立ちます。着慣れた制服にも、通い慣れた通学路にも、行けば当たり前のように仲間と会える教室にも、別れを告げなければならないときがやってきました。

今日、日本では実力主義の理念が浸透し始めています。それにともない、今後、自分を認めてもらうために、必要とされるために、どうしたらよいか考える機会が増えていくことでしょう。しかし、そうしたことに直面したときこそ、東陽中学校で学んだ、困難なことに立ち向かう勇気をもつことの大切さ、人と協力することの大切さなど全てのことが、私達がそれぞれの正しい道を歩むための道しるべとなるはずです。これまでの支えを糧に、私達は一歩一歩着実に、前へ進んでいきます。

最後に、お世話になった全ての方々のご健康と、東陽中学校の益々の発展とご活躍をお祈りし、答辞といたします。

令和六年三月十九日

第三十八期 卒業生代表 * * * * *